

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	百貨店（営業担当）	・売上は前年割れとやや苦戦したが、今後は冬にかけてイベント等のカレンダー要因があることに加え、現在の街場への動員の様子からも、春からの回復基調がそのまま続く。
		通信会社（企画担当）	・年末という季節要因に加え、新機種、新サービスが導入されるため、今月以上の来店、販売が十分期待される。
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・現在のところ、マーケット全体が消費マインドの上昇を先読みしている状況である。消費マインドの上昇が個人に浸透するには多少時間がかかるが、2、3か月後には上向く。
		コンビニ（エリア担当）	・冬物商品の肉まん、おでんの売上が前年よりかなり良い。この状況が続けば前年を上回る。客の財布のひもも緩んできたようであり、景気が一部で良くなってきた。
		コンビニ（店長）	・周り状況は厳しいが、夏場から好調なのでこのまま続いて欲しい。近くで新幹線工事等があるため人の往来が激しく、去年より良くなると期待している。
		衣料品専門店（経営者）	・企画によっては個店の売上は確保できる。客の様子からは、日常生活にある程度の余裕を感じるようになった。
		衣料品専門店（総務担当）	・宝石・時計・呉服等の高級品が伸びており、ヤング婦人服も客数が増加して売上増が見込める。
		家電量販店（店員）	・パソコンの改正リサイクル法が10月1日から施行されるため、買換え需要が見込める。少し良くなる。
		乗用車販売店（管理担当）	・イベント等を実施したときに、買い回りの客がやや増加している。買換え需要が少し増えたようなので、これからもそう悪化することはない。
		スナック（経営者）	・年末に向けての営業活動や、異動などが活発になる。それに加えて地元球団の優勝により、気分的に消費傾向が上昇する。
		観光型ホテル（スタッフ）	・一般宴席・婚礼とも前年に比べ秋の予約が伸びているが、宿泊予約は相変わらず厳しい。トータルでは良くなっている。
		旅行代理店（従業員）	・人員ベースでは何とか前年を超えているが、低価格商品のみが良く売れている。また、人の動きが活発化している。この傾向は今後も続く。
		旅行代理店（業務担当）	・国内、海外ともに、2～3か月先の受注が前年の水準に戻りつつある。
		テーマパーク（職員）	・ホテルは、女性向けのスパラウンジが10月1日にオープンし、問い合わせ等もある。今後の予約とオペレーションに期待したい。ゴルフは、秋口から伸び始めている。コンベンションについても予約が伸びている。
	設計事務所（所長）	・客の引き合いや計画、官公庁の発注状況等から判断すると、少しずつ良くなる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・来客数等からは良くなる傾向がみえないが、一部で客の買上に動きがみられる。業種間の波及的現象を別にすると、横ばいで推移する。
		百貨店（営業担当）	・例年利用が増える友の会お買物券の引換えの出足が鈍い。慎重な品定めで不用の買物を控えており、買物点数が減少している。
		百貨店（営業担当）	・今月は特に残暑が厳しく、秋物の衣料品の動きも非常に悪い。10月以降若干持ち直すとみえるが、まだまだ末端の消費の回復には至らない。
		百貨店（営業担当）	・月々の売上の動向を見ると、前年比の減少率がほぼ同じ状態で推移しており、先々好転する要素は見えない。
		百貨店（売場担当）	・売上は小康状態である。主力の衣料品も前年度比95～96%くらいの推移でさほど力はない。入店客数はほぼ元に戻っている。先行きは横ばいである。
スーパー（店長）		・食品部門は大きな変動はない。一般の雑貨、服飾系はいささか厳しいが、極端な落ち込みではなく現状維持である。	
スーパー（店長）		・季節商品、売れ筋商品の伸びが悪い。ボーナスの手取り額も少なくなりつつあるため、見通しは良くない。	
スーパー（総務担当）		・衣料品は、9月前半に一時的に寒くなったため少し売上が伸びたが、継続的な伸びはなかった。今後も気温の変化に敏感に反応するとみえるが、売上が持続することは困難である。	

		コンビニ（販売促進担当）	・日が短くなったせいか、客の引きが早まってきた。前年も同じような感じであったが、夜間の売上が若干落ちることが懸念される。また、12月のクリスマスケーキ、餅等の際期に関しては、前年比110%程度の予想を立てているが、全体の販売量は依然として横ばいとなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・株価の上昇等、景気回復に対する期待感はあるが、購買行動は慎重である。今後もこの姿勢は変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン減税による動きがなくなった。金利の上向き傾向も影響し、今後は横ばいとなる。
		住宅販売会社（従業員）	・金利上昇という、住宅建設を後押しする要素はあるが、一方で住宅ローン減税の延長により着工、契約の時期がずれ込む可能性がある。現状とあまり変わらない。
	やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・個人消費は更に悪化している。夏物後半から続くファッション商品の不振は、秋冬物に変わった現在も引続き好転していない。
		スーパー（店長）	・9月下旬に同業の大型商業施設が売り場を約2倍に増床し、その影響が心配される。
		スーパー（経理担当）	・福岡都市圏でスーパー・大型ショッピングセンターの新規出店が相次ぎ、顧客獲得のための販促・価格競争が一層激化しそうである。
		通信会社（業務担当）	・10月から携帯電話買換え優遇価格適用のサイクルが6か月から12か月に伸びるため、買換え販売台数はさらに減少する。新規契約は既に飽和状態で伸び悩んでおり、やや悪くなる。
	悪くなる	百貨店（売場主任）	・入店客数、買上単価ともに下がる傾向にある。競合各店も非常に厳しい。
		衣料品専門店（店長）	・近隣の大型商業施設のオープンにより、ただでさえ少ない来街客が更に落ち込んでいる。特に土日の売り上げの落ち込みが激しい。そのため、土日を店休日とする店が増え、来街者減に拍車がかかっている。
企業 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・水稲の作況はやや不良であったが、北海道・東北地方の作況が極めて不良であったため、宮崎県産の米の価格は高騰している。また、韓国の台風14号の被害が大きいことから、韓国産ピーマン等の輸出が減少し、国内産の価格が安定するという見方が強まっている。
		家具製造業（従業員）	・東京の受注量の動きは今年も安定しており、地方都市の大坂、福岡なども段々増えつつあるため、今後2～3か月は上向く。各地方への波及はその後である。
	変わらない	農林水産業（経営者）	・秋の行楽シーズンの特殊需要に期待したいが、夏は冷夏、冬は暖冬の傾向にあり、伸びる要因が見当たらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体のリードフレームは、8月は悪かったが9月は良かった。10月以降は全く状況が読み取れない。特に円高がどう影響するかが懸念されている。
		建設業（従業員）	・依然として競合が厳しい。仮に受注しても利益が期待できない。
		不動産業（従業員）	・賃貸オフィスや商業施設の入居率はやや改善したが、下落した賃料単価が回復するまでには至らない。先行きは楽観できる状況にはない。
		広告代理店（従業員）	・ここ3か月、折り込みチラシが、わずかではあるが確実に増えている。チラシの枚数は景気に左右されるため、わずかに景気の回復がみられる。
		広告代理店（従業員）	・相変わらずレギュラー広告の売上は厳しいが、良い企画ものを出せばクライアントも興味を示し、それなりの売上が確保できている。
		経営コンサルタント	・酒類販売の自由化に伴う新しい動きがあまりみられないことや、緊急調整地域の適用で新規の免許取得が制限されていることなどから、酒類業界に大きな変化はない。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・出荷数量の減少を、少しでも単価の高い商品で補うことで売上を維持してきたが、今月は、前年に比べ数量の減少に歯止めがかからず、売上減は避けられなかった。今後もこの傾向が続く。
		通信業（職員）	・総務省補助事業による自治体のネットワーク構築がほとんど行き渡り、官庁関連の案件が急激に減少している。
	悪くなる	繊維工業（営業）	・相変わらず安価な中国製品が強く、国内は潤っていない。
雇用	良くなる	-	-

関連	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・9月後半から人材派遣の問い合わせとオーダーが急激に増えた。職種はムラがあるものの、このまま年末に向けて増え続ける傾向にある。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・企業、経営トップの求人マインドが改善している。ただ、求める雇用形態は多様化しており、正社員は即戦力、その他はパート・アルバイトで賄うという動きは変わらない。
		職業安定所（職員）	・有効求人数が前年同月比で8か月連続上昇中である。
		職業安定所（職員）	・製造業においてデジタルカメラ、半導体等の生産が好調であることに加え、今後、郊外型の大型小売店の新規オープンが計画されているため、雇用状況は良くなる。
		民間職業紹介機関（職員）	・全体的に技術者が多く求人があったがそれに加えて営業職、営業管理、マーケティング等、幅広い分野で求人が多くなっている。
		民間職業紹介機関（支店長）	・営業・販売職系の需要が2けたの伸びを示している。地元球団、在阪球団の優勝効果からか、顧客企業の販売強化、すなわちモノが以前よりも売れ出したようである。
変わらない		求人情報誌製作会社（編集者）	・地元球団のリーグ優勝と日本シリーズ出場により、かなりの経済効果が見込めるため、この勢いを年末商戦まで持ち込んでもらいたいところである。既に日本シリーズに向けて、地元球場内での短期的な求人の発注もあった。
		職業安定所（職員）	・有効求職者数の増加幅は小さくなっているが、8か月連続で前年比増をキープしている。また、地場大手スーパーの合併に伴う経営改善のため、離職者の発生が懸念されている。
		職業安定所（職員）	・製造業において事業縮小等による人員整理が相次いでおり、厳しい状況は依然として続く。
	やや悪くなる		
	悪くなる	-	-